

学生各位

青森公立大学 学長 香取 薫

青森公立大学の学生のコロナ対策について【2021 秋学期版】

新型コロナウイルス感染症については、「感染力の強いデルタ株などの変異ウイルス」の影響により、青森県内においても新規感染者が100人を超す日がでており、県内の他大学の運動部等においてクラスターが多発するなどこれまでの経験をはるかにしのぐ状況となっております。

学生の皆さんにはこれまで度重なる注意喚起と感染防止対策の徹底の呼びかけに応じてもらい、なんとか乗り越えてきましたが、現在の感染拡大状況は、これまでと次元が違うものと言わざるをえず、学生・教職員が心一つにして取り組んでいかなければならないと考えております。ついては、下記の点に留意し、今一度対策の強化に努めてください。

また、コロナ対策の長期化により気の緩みが指摘されていますが、マスク（「不織布」を推奨）の「正しい着用」も意識してください。

- 大学内外を問わず、必ず正しくマスク（「不織布」を推奨）を着用すること。
- 規則正しい生活を送り、毎日検温するなど体調管理に努めるとともに感染症対策を徹底すること。
- 「緊急事態宣言区域」、「まん延防止等重点措置区域」への往来はしないこと（但し、就職活動を除く）。
⇒やむを得ず往来する必要がある場合には、事前に事務局に連絡すること。

【対象区域はこちら】<https://corona.go.jp/emergency/>

- （就職活動で移動した場合） ・移動先では不要不急の外出を控えるなど感染対策を徹底すること。
- ・帰青後2週間程度は、感染対策を徹底し、人との接触を最小限にとどめること。

上記以外の県外への往来は控え、往来した場合、帰青後2週間程度は、感染対策を徹底し、人との接触を最小限にとどめること。県内でも感染が拡大している地域との往来は控えること。

○9月1日～9月30日の期間、サークル活動（イベント参加・合宿等を含む）は行わないこと。

- 友人等多人数での集団旅行や、バーベキュー、いわゆる宅飲み等、感染リスクの高い行動はしないこと。
- 混雑が予想されるイベント等への参加はしないこと。

【注意点】

○新型コロナウイルスに感染した場合はもちろんですが、同居者が感染（感染疑い含む）した場合など感染が疑われる場合（「行動フロー」参照）も早急に事務局に連絡してください。

また事務局では、皆さんが安心して学生生活を送れるよう様々な相談に応じていますので、ストレスや不安を抱えたとしても決してひとりで悩まず、気軽に相談してください。

これまでもいろいろな制限があり、コロナによるストレスが溜まってきているかと思いますが、この時期を乗り越え、いつもの生活を早く取り戻すため、学生・教職員一丸となって取り組んでいきましょう。

※学生相談室の開設（9月9日～）

- ・開設日時：授業期間の月曜日・木曜日 16:00～18:00（予約不要）※左記期間以外は事務局窓口で対応します。
- ・場 所：食堂上の部屋（3F 保健室の奥）

○今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況により、大学からの緊急のお知らせがある場合がありますので、日々ホームページ及びメールを確認してください。

○**新型コロナウイルスワクチン未接種の学生でワクチン接種を希望される方は、青森商工会議所が実施する接種に積極的に申し込み（申し込み期間：8/30（月）～9/3（金）15時まで）するようにしてください。**

青森県から学生の皆さんへのお願い（令和3年5月）

～新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために～

- 感染経路不明の感染者が増加しています。
- BBQ等も含め、飲食の場面での感染者が増加しています。
- 病院・福祉施設などでクラスターが発生しています。
- 酒類を提供する飲食店でのアルバイトで感染した事例もあります。
- スポーツの場面で感染した事例もあります。

特に気を付けていただきたいポイント4点についてお知らせしますので、御家族、御友人とも話し合ってみてください。

【対策のポイント】

- ① 大人数の会食、長時間の飲酒、深酒は控えましょう。
(飲食中でも会話時はマスクを着用・カラオケ時もマスク着用)
- ② 若い人は感染しても気付かないケース（無症状・軽症）が多いので、御家族等に高齢者や、病院・福祉施設などで働いている方がいる場合は、特に慎重に行動しましょう。
- ③ アルバイトをする場合は、感染防止対策が適切に行われているか十分確認しましょう。
- ④ 学外でのスポーツ活動への参加は、慎重に判断しましょう。
(スポーツ活動の前後においても基本的な感染防止対策を徹底)

※ 詳細については、学校の指導内容に従ってください。

新型コロナウイルス感染症により、授業をはじめキャンパスライフ全般にわたり様々な影響が及んでいるかと思えます。

大切な仲間との交流もままならない状況が長期にわたって続いています。県内の厳しい感染状況を踏まえ、御協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染症が疑われる症状がある場合の受診方法

→ まずは電話で「かかりつけ医等」か「県コールセンター」に相談してください。

新型コロナウイルス感染症コールセンター

電話番号 0120-123-801

緊急のお願い！新型コロナ感染拡大防止

(青森県知事メッセージ動画まとめサイト)

<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

青森県新型コロナウイルス感染症対総合サイト

<https://stopcovid19.pref.aomori.lg.jp/>

別紙

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

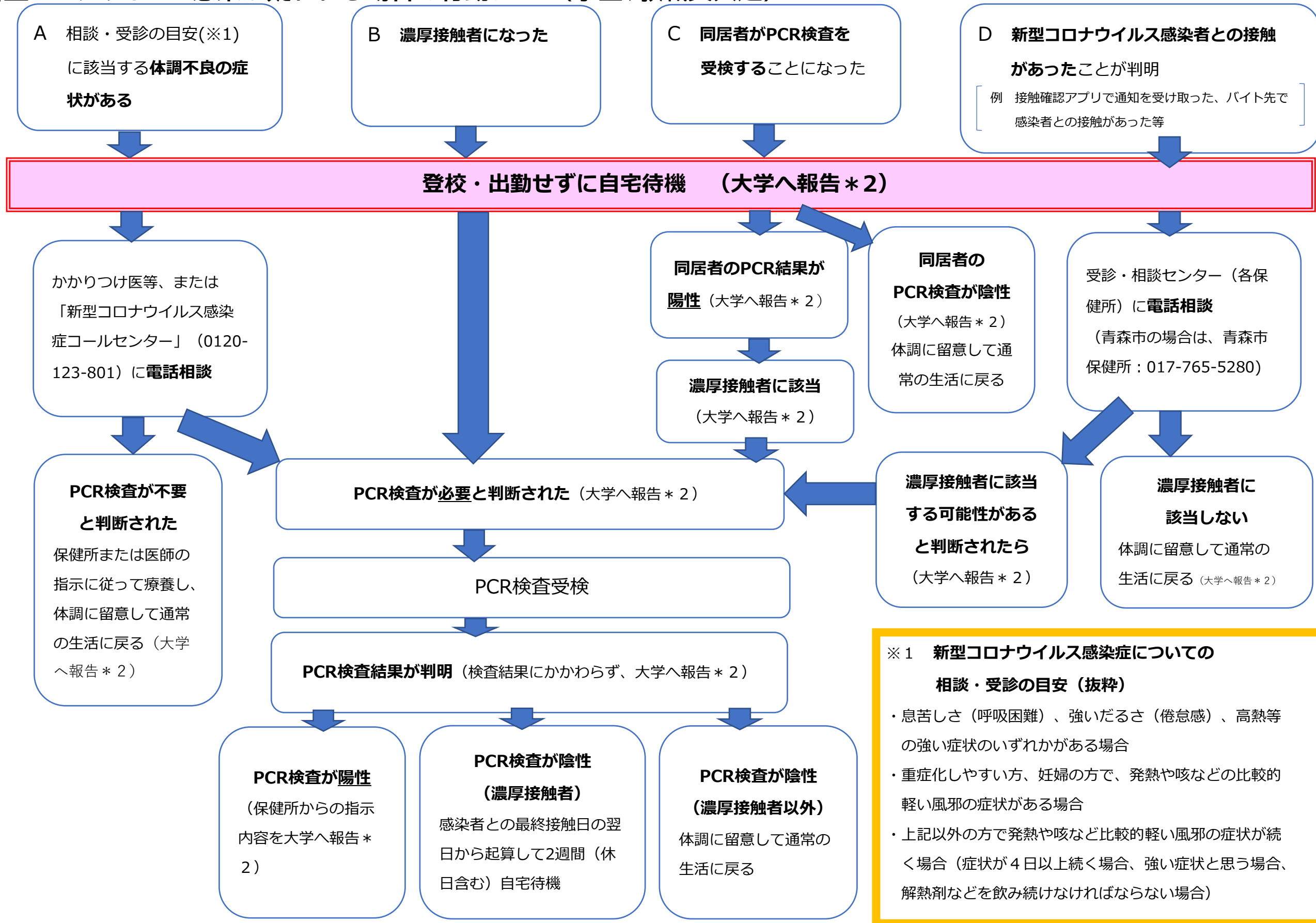
- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



【感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫（分科会からの提言）】

- 飲食するのであれば
 - ① 少人数・短時間で、
 - ② なるべく普段一緒にいる人と、
 - ③ 深酒・はしご酒はひかえ、適度な酒量で。
- 箸やコップは使いまわさず、一人ひとりで。
- 座の配置は斜め向かいに。（正面や真横はなるべく避ける）
- 会話をするときはなるべくマスク着用。
- 換気が適切になされているなどの工夫している、ガイドラインを遵守したお店で。
- 体調が悪い人は参加しない。

新型コロナウイルス感染が疑われる場合の行動フロー(学生、教職員共通)



※1 新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安(抜粋)

- ・息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
- ・重症化しやすい方、妊婦の方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
- ・上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合(症状が4日以上続く場合、強い症状と思う場合、解熱剤などを飲み続けなければならない場合)